

京都市立桃陽総合支援学校 ～ICTを活用した学習支援の取組～

願いの像

桃陽総合支援学校 校長
石原 廣保

①桃陽総合支援学校について

②ICTを活用した本校・分教室・訪問教育
の取組事例

③リモート体験の取組事例

④ICTを活用した高校生支援の取組

① 桃陽総合支援学校について

学 校 概 要

病気により入院療養している子どもが治療を受けながら安心して教育が受けられるように京都市が設置している総合支援学校（病弱教育）です。*京都市では特別支援学校の名称を「総合支援学校」としています

【3つの教育部門】

本 校 京都市桃陽病院

分 教 室 京都大学医学部附属病院
京都府立医科大学附属病院
京都第二赤十字病院
国立病院機構京都医療センター
京都市立病院

小児がん拠点病院

訪問教育 分教室のない病院へ入院した場合

それぞれに小・中学部を設置

小・中学校に準ずる教育

京都市立小・中学校指導計画（京都市スタンダード）

自 立 活 動

- 進んで病気治療に取り組む意欲を育みます。
- 情緒の安定や、ソーシャルスキルを高める学習などに取り組めます。

自立活動

（特別支援学校学習指導要領 自立活動編）

障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。

内容(6区分27項目)

- ① 健康の保持
- ② 心理的な安定
- ③ 人間関係の形成
- ④ 環境の把握
- ⑤ 身体の動き
- ⑥ コミュニケーション

校 時 表

令和5年度 校時表

	小学部	中学部
朝の会	8:30 ~ 8:40	8:30 ~ 8:40
1	8:40 ~ 9:25	8:40 ~ 9:30
休 憩	(10分休憩)	(5分休憩)
2	9:35 ~ 10:20	9:35 ~ 10:25
休 憩	(15分休憩)	(10分休憩)
3	10:35 ~ 11:20	10:35 ~ 11:25
休 憩	(15分休憩)	(10分休憩)
4	11:35 ~ 12:20 (分教室:~12:15)	11:35 ~ 12:25 (分教室:~12:15)
昼休み	12:20 ~ 13:25 (分教室補充13:20~)	12:25 ~ 13:25 (分教室補充13:15~)
5	13:25 ~ 14:10	13:25 ~ 14:15
休 憩	(15分休憩)	(10分休憩)
6	14:25 ~ 15:10	14:25 ~ 15:15
(本校学活・清掃)	15:10 ~ 15:25	15:15 ~ 15:25
(本校課外)	15:25 ~ 15:55	15:25 ~ 15:55
備考	・木曜日は5校時まで	
	・(火)金曜日放課後は、課外活動	
	・小学部1単位時間:45分 ・中学部1単位時間:50分	
	・8:25、8:30、12:25、16:55と各授業開始時にチャイム	

(訪問教育)

週3日

一回2時間

在籍児童生徒数推移

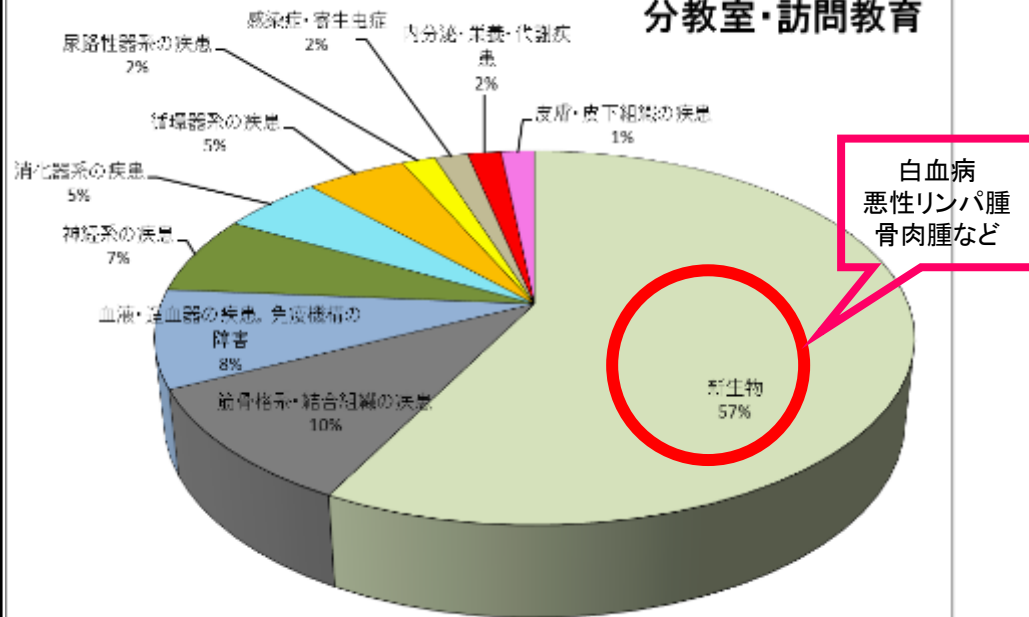
平成30年度在籍総数

		市内	市外	府外	合計	
本校	小学部	10	6	0	16	
	中学部	35	2	1	38	
	合計	45	8	1	54	
訪問教育	小学部	3	1	0	4	
	中学部	1	0	0	1	
	合計	4	1	0	5	
分教室	京大病院	小学部	6	1	12	19
		中学部	4	1	17	22
		合計	10	2	29	41
	府立医大	小学部	7	8	3	18
		中学部	7	5	2	14
		合計	14	13	5	32
	市立病院	小学部	0	0	0	0
		中学部	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0
	第二赤十字病院	小学部	3	0	0	3
		中学部	6	0	0	6
		合計	9	0	0	9
	国立医療センター	小学部	1	0	0	1
		中学部	1	1	1	3
		合計	2	1	1	4
	4分教室	小学部	17	9	15	41
		中学部	18	7	20	45
		合計	35	16	35	86
		全校	小学部	30	16	15
		中学部	54	9	21	84
		合計	84	25	36	145

令和4年度在籍総数

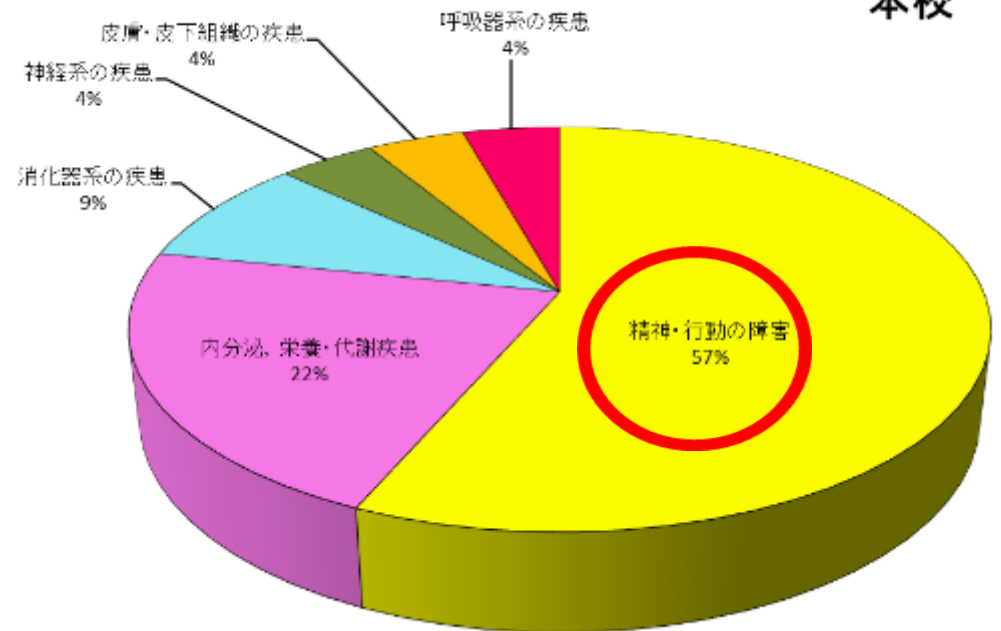
		市内	市外	府外	合計	
本校	小学部	5	0	0	5	
	中学部	9	6	2	17	
	合計	14	6	2	22	
訪問教育	小学部	2	0	0	2	
	中学部	2	0	0	2	
	合計	4	0	0	4	
分教室	京大病院	小学部	4	2	9	15
		中学部	4	0	3	7
		合計	8	2	12	22
	府立医大	小学部	10	5	1	16
		中学部	0	3	1	4
		合計	10	8	2	20
	市立病院	小学部	5	0	0	5
		中学部	3	0	0	3
		合計	8	0	0	8
	第二赤十字病院	小学部	1	0	0	1
		中学部	1	0	0	1
		合計	2	0	0	2
	国立医療センター	小学部	0	0	0	0
		中学部	0	0	0	0
		合計	0	0	0	0
	4分教室	小学部	20	7	10	37
		中学部	8	3	4	15
		合計	28	10	14	52
	全校	小学部	27	7	10	44
		中学部	19	9	6	34
		合計	46	16	16	78

分教室・訪問教育



疾病分類

本校



本校 小・中学部

本校



- 心身症や不安障害，慢性疾患などで隣接する「京都市桃陽病院」に入院している小・中学生の教育を行います
- 京都市桃陽病院と連携して子どもたちを支援します。
- 運動会や学習発表会などの行事もあります。

運動会



学習発表会

授業風景



分教室小・中学部

分教室



- 病状や治療に合わせて、病院内の教室やベッドサイドで学習に取り組みます。
- 教科の学習や、自立活動によって「わかる」「できる」喜びを感じられる取組を進めています。

・特別活動（分教室集会）

5つの分教室では、TeamsやZoomをつかって、月に一度「分教室集会」に取り組んでいます。



・学習交流

TeamsやZoomで、植物の観察など、院内学級では難しい学習を、本校と予定を合わせ、一緒に行うことがあります。



訪問教育（小・中学部）

訪問教育

- 京都市内のへ教員が訪問し、週に3回、1回2時間程度の授業を、病院内で行います。
- 前籍校との連携
 - ・学習進捗の情報やプリント類を提供してもらって学習を行ったり、インターネットで在籍していたクラスと病室をつなぎ交流したりすることもあります。
- 学習内容
 - ・本人の体調や学習の状況に合わせて授業を進めていきます。
 - ・病気のこと、学校のこと、不安に思っていることを和らげる活動や退院後の生活について考える学習も行います。



京都第一赤十字病院・武田総合病院・桂病院

洛和会音羽病院 他 京都市内の病院

「育」支援センター桃陽～教育相談

はぐくみ 『育』支援センター桃陽

- 「病気やけがで入院している子，からだや心の不調を訴えて学校を休みがちな子」『育』支援センター桃陽は，こんな子どもたちを支えます。

◎主な事業内容

保護者，学校の教職員の方々からのご相談に応じます。

- ・ 病院に入院している児童生徒の学習について
- ・ 心身症などで，学校に登校しにくい児童生徒への支援について
- ・ 退院後の学習や生活について
- ・ 京都市桃陽病院や桃陽総合支援学校の見学

など



地域支援

- 「教育相談」 「講演会・相談会」 「公開研修会」
- 「学校訪問」 広報・情報伝達・聴き取り
- 「病院訪問」 広報

配信授業に対するアンケート①

①-1.アンケート結果(対象:児童生徒)

Q.配信授業は対面授業に比べて質問しにくいですか？

- 配信授業とても質問しにくい 0
- 配信授業は少し質問しにくい 4
- 対面授業と変わらない 7
- 配信授業の方が質問しやすい 1



Q.配信授業は対面授業に比べて疲れやすいと感じますか？

- とても疲れやすい 2
- 少し疲れやすい 0
- 対面授業と変わらない 9
- 配信授業の方が楽に感じる 1



Q.配信授業は対面授業に比べて指導者との距離を感じますか？

- とても距離を感じる 3
- 少し距離を感じる 4
- 対面授業と変わらない 5
- 配信授業の方が近く感じる 0



Q.配信授業が途切れた際、どのように感じていますか？(複数回答可)

- 早くつながってほしい 6
- 早くつながらなくてもよい 2
- 自習課題があると嬉しい 2
- ミライシードを解いておきたい 1
- 休憩していたい 2



配信授業に対するアンケート②

①ー2.アンケート結果(対象:指導者)

Q.配信授業は対面授業に比べて理解度を把握しにくいですか？

- 配信授業とても把握しにくい 4
- 配信授業は少し把握しにくい 9
- 対面授業と変わらない 0
- 配信授業の方が把握しやすい 0



Q.配信授業は対面授業に比べて疲れやすいと感じますか？

- とても疲れやすい 5
- 少し疲れやすい 5
- 対面授業と変わらない 3
- 配信授業の方が楽に感じる 0



Q.配信授業は対面授業に比べて児童生徒との距離を感じますか？

- とても距離を感じる 3
- 少し距離を感じる 10
- 対面授業と変わらない 0
- 配信授業の方が近く感じる 0



Q.配信授業中に映像等が途切れることはありますか？

- よくある 2
- たまにある 10
- ほとんどない 1
- ない 0



② ICTを活用した 本校・分教室・訪問教育の取組事例

ICT機器について

Web会議システム



テレプレゼン
スロボット





①本校・分教室の交流

本校と分教室の小学部で「畑の交流」を行ってきたので、今年度最後の交流が実施されました。





②前籍校(中学校)との交流
～合唱コンクール
を視聴して～





③夏の思い出 2学期に がんばりたいこと



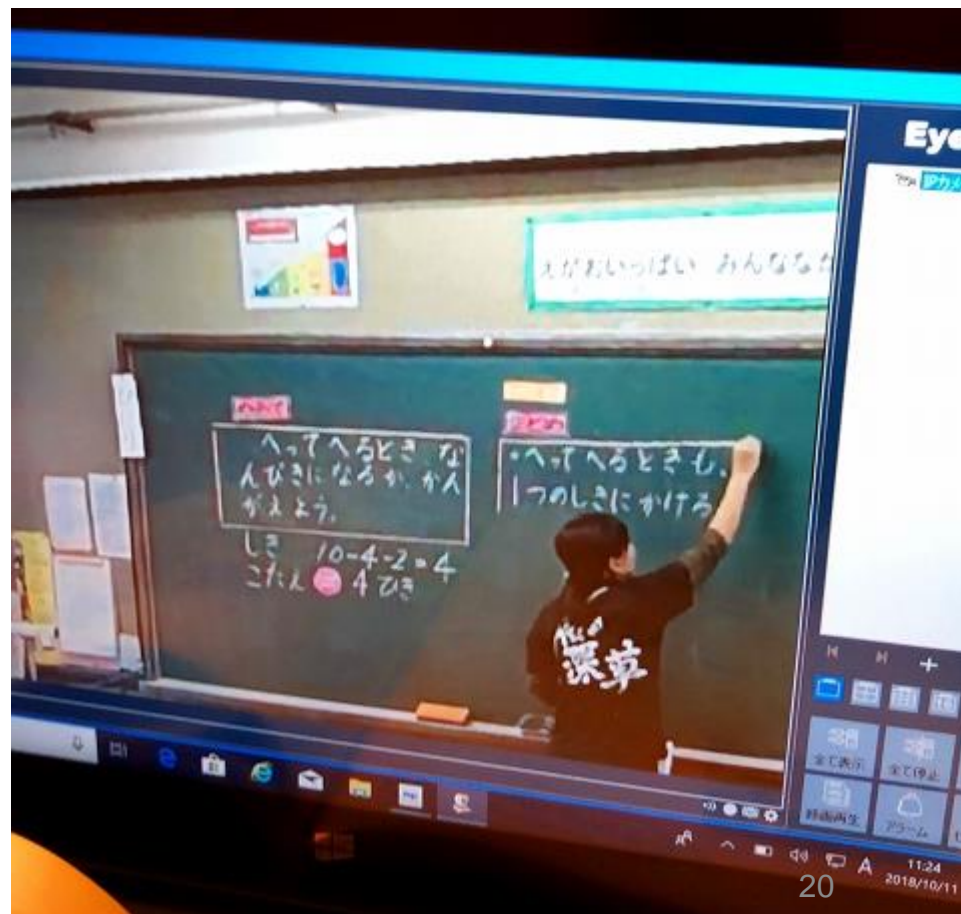
【訪問教育・個に応じた支援】

ベッドサイドや
学習室で学習



復学支援を大切に

- ・前籍校の「今」を共有
→授業を配信する



【在宅治療の学習支援】



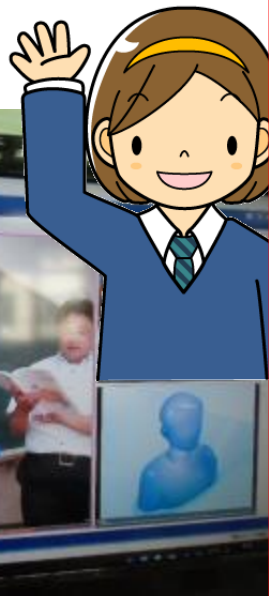
退院したよ！しばらくは在宅治療なんだ！



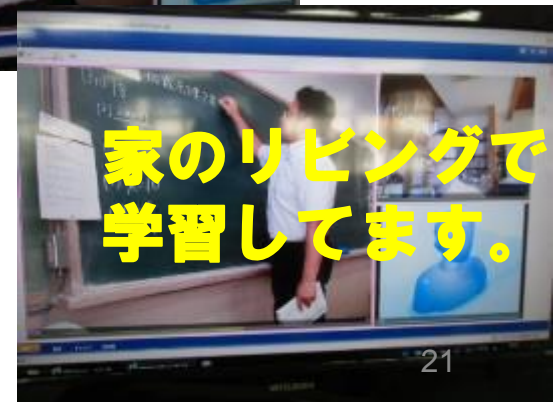
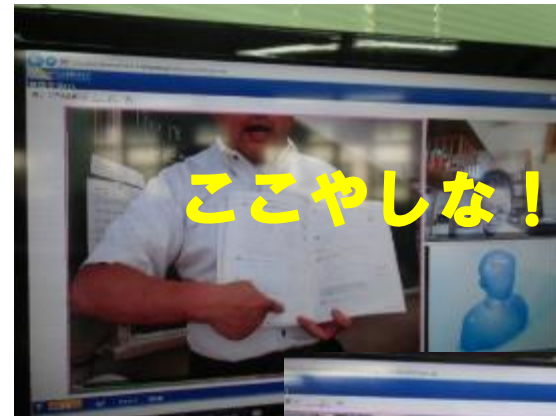
学校に行けない。勉強どうしよう。分教室も退学したし。



在宅治療か。どうやって学習を進めてあげたらいいだろう？



オンラインで、家と学校をつないで授業を配信してみよう！



ICT機器について

Web会議システム



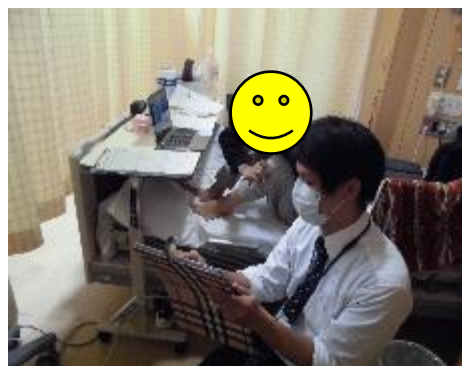
テレプレゼン
スロボット



①リモート鑑賞会



学校行事「学習発表会(文化の部)」にて本校に展示された作品をテレロボのkubiやTemiを分教室から操作して自分や他の児童生徒の作品を鑑賞した。



自分の見たい作品を見たり、行きたい場所に行ったり、自分で操作できるため能動的に体験に参加することが出来た。本校の児童生徒も、テレロボを通じて分教室の児童生徒と話せた。

②図書館で本を借りよう



本校の図書館で、テレロボのkubiやTemiを分教室から操作して、自分の借りたい本、読みたい本を探して借りた。



分教室にも書籍はあるが、本校の図書館に比べると、数や種類が少ない。本校の図書館をWeb会議システムで映して貸し出す取組はこれまでもあったが、自分で操作するテレロボを活用すると、一度の取組で見童生徒の借りた本の数が一気に増えた。

③校長先生と話そう



テレロボのkubiにスーツを着せて、校長先生とつなぎ、普段校長先生と接する機会の少ない分教室の生徒と話をした。



テレロボのkubiを活用することで、本当に目の前に校長先生がいるかのように感じた。参加した生徒は「緊張したけれど、校長先生はとても明るい人だった」とモニター越しとは思えない感覚で話すことができた。

④リモート調理実習



テレロボのkubiを使用して、調理実習の体験をしました。入れる調味料の量やタイミング、調理の仕上がり具合などを、ベッドサイドで見ている生徒から伝えてもらいました。



テレロボのkubiを活用することで、病院ではできない調理実習を体験できた。自分が出した指示で作った料理を校長先生に食べてもらいました。



③ リモートを活用した体験的な学習の 取組事例

病弱教育の課題

病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

特別支援学校学習指導要領 各教科編 (小学部・中学部)第3章 第5

3 体験的な活動における指導法の工夫

(3) 体験的な活動を伴う内容の指導に当たっては、児童の病気の状態や学習環境に応じて、**間接体験や疑似体験を取り入れる**など、指導方法を工夫し、効果的な学習活動ができるようにすること。

ICTを活用した体験的な活動の指導法を探る

令和4年度 リモート体験一覧

実施月	学部	授業名(単元名)	児童・生徒の活動
6,7,9, 12,2月	小	総合 畑の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の畑で育てている野菜の様子を見たり、質問したりする ・野菜について調べたことを発表したり、本校の調理実習の様子の発表を聞いたりする ・野菜クイズ・野菜ビンゴなどのゲームで交流する
7月	小中	総合 海外で生活する人と交流	<ul style="list-style-type: none"> ・JAICAでルワンダ在住の人から現地の様子を聞く
7,9, 11,2月	小中	自立活動 ぶんぶんタイム	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が企画したみんなで楽しめる取組をする 今年度の例：zoomのホワイトボード機能を使ったゲーム
9月	小	総合 リモート動物園	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市動物園の様子をリアルタイムで見る ・京都市動物園職員の講義をうける
10月	小中	生活・理科 プラネタリウム	<ul style="list-style-type: none"> ・府立分教室の教室で行うプラネタリウムの様子を京大・市立分教室から見る
10月 ~12月	小	小3 理科 『動物のすみか』 『地面のようす』	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の校舎外の様子を見る ・ダンゴムシなどの生き物がいそうなところを予想し、探す ・地面にできるかげと太陽の位置関係などを見る
11月	小中	特別活動 学習発表会展示鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・kubiやtemiなどのアバターロボットを操作し、本校の展示物を鑑賞する
11月	小	小4・小5 国語 『プラタナスの木』 『秋の夕暮れ』	<ul style="list-style-type: none"> ・府立医大の庭にあるプラタナスの木や、季節の植物の様子を見る
11,2月	小	生活・理科 ノートルダム女子大学との交流 (NDラボ)	<ul style="list-style-type: none"> ・理科学的な実験を配信で観ながら、自分たちでも実際に用意した材料を使ってやってみる
11,12, 1,2月	小中	自立活動 ピッケの作る絵本	<ul style="list-style-type: none"> 配信で講師の先生とやり取りしながら、ipadを使って絵本作りする

実施月	学部	授業名(単元名)	児童・生徒の活動
12月	小中	総合 リモート修学旅行 ・琉球大学博物館 ・沖縄美ら海水族館	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の琉球大学博物館を訪問し、学芸員の解説を聞く ・美ら海水族館を訪問し、職員の解説を聞いたり、ジンベエザメのエサやりを見たりする
12月	小	国語 本校の図書室の本を借りよう	<ul style="list-style-type: none"> ・kubiやtemiなどのアバターロボットを操作し、本校の図書室の本を選ぶ
12月	小中	理科 科学センター学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本校児童生徒の科学センター学習の際に、職員の話や実験の様子を見たりする
12月	中	家庭科 リモート調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・kubiやtemiなどのアバターロボットを操作し、本校の家庭科室にいる教員とやりとりしながら、調理をする
1月	小中	自立活動 校長先生とトーク	<ul style="list-style-type: none"> ・kubiやtemiなどのアバターロボットを活用し、校長先生と話したり、校長室の様子を見たりする
2月 (予定)	小	総合 節分の行事に参加しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田神社の節分会の様子をリアルタイムで見る
3月 (予定)	小	総合 リモート水族館	<ul style="list-style-type: none"> ・京都水族館の様子をリアルタイムで見る
2月or 3月 (予定)	小	自立活動 本校と分教室で交流しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会で企画し、ゲームなどを通じて交流する

①動物園リモート遠足



京都市動物園に教員が行き、園内からZoomで配信した。

- ・園内の散策
- ・職員さんの講義を聞く

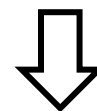


児童生徒の「あっちが見たい」「こっちに行ってみよう」という声を聴いたり、職員さんへの質問をすることで一方向ではなく双方向の体験学習ができた。

②沖縄リモート修学旅行



琉球大学博物館や沖縄美ら海水族館とZoomで繋いで配信した。



修学旅行に行くことができない入院する児童生徒が、沖縄にしか生息していない鳥の鳴き声を聞いたり、実際に美ら海水族館へ行っても見ることができないジンベエザメのエサやりをライブ配信してもらったりと、リモートだからこそできる体験をすることができた。



③リモート節分祭



2月3日節分の日
に吉田神社と
リモートでつないだ
活動をしました。



④NDラボ（恐竜が出た！）



ノートルダム女子大学の小児医療ボランティアの学生さんとの交流「NDラボ」を行いました。



成果と課題



成果

- ・リモート配信に対応してできる施設が増加。リモートでしかできない体験。
- ・双方向でやりとりすることで、能動的な活動ができる。
- ・一人一人が自己発信しながら活動に参加できる。

課題

- ・屋外からの配信には無線ルーターなどのネットワークが必要。環境によっては配信が止まったり、画像や音声が乱れる。
- ・人数が多いと、双方向でのやりとりを全員とすることが困難。

④ 令和4年度文部科学省研究委託

**「高校生段階の病気療養中の生徒に
対するICTを活用した
遠隔教育の調査研究事業」について**

情報技術の活用に関する実証研究

- ◆ 平成23年度～平成25年度 文部科学省・総務省指定
「学びのイノベーション事業」「フューチャースクール推進事業」実証校
2つの小児がん拠点病院に京都市教育系ネットワークを導入
- ◆ 平成26年度～平成28年度 京都市教育委員会研究指定
「病弱特別支援教育におけるICTの効果的活用研究」
- ◆ 平成28～30年度文部科学省委託
「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」
- ◆ 平成25～30年度 東京大学先端科学技術センター・ベッドサイド通信
「魔法のプロジェクト」 協力校
- ◆ 令和元年度・2年度文部科学省委託
「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業」
- ◆ 令和3年度文部科学省委託
「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業」



入院する高校生を支える学習支援

平成27年4月、学校教育法施行規則の改正。

「高等学校は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる（第八十八条の二）」

分教室の中学3年生

院内受験で高校受験に挑戦！見事合格！退院できず。
高校生生活のスタートは病院のベッド。
進級・単位修得への不安と戸惑い。

桃陽総合支援学校

入院する高校生の学習支援の必要性を考える契機

令和4年度 取組概要

「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICT
を活用した遠隔教育 の調査研究事業」

令和4年度 高校生教育相談実績

分教室設置病院	小児科	7校
	小児科以外	2校
分教室を設置していない病院		4校

配信授業
実施校数
10校

令和4年度 取組事例より



桃陽がホストとなりオンラインでカンファレンスをコーディネート

○ケースカンファレンス

- 入退院時、状況に応じた医療関係者と高校の情報共有
- 転院病院（京都市内）とのケースカンファレンス
- 他府県高校から、主治医とのケースカンファレンスのコーディネート依頼

入院する高校生の学習支援について、医療と高校の情報共有がポイントとなる。その相談先として、センター的機能は有効であった。

○定期考査

- 医教連携コーディネーターが高校の時間割に合わせて、病院側の流れを作成し関係者で共有
- 医教連携コーディネーターと高校で問題、回答用紙をPDFでやりとり。
- 病院側でのテスト監督を依頼される高校が多かった。



修得状況を把握するためには定期考査の受験を高校は必要とされた。病院側でのサポート者は必要である。

令和4年度 取組事例より

○小児がん拠点病院以外での授業配信

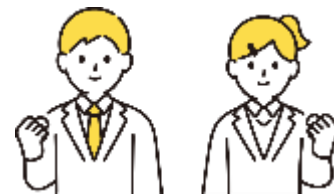
- 生徒が入院したので、配信授業に取り組みたい。方法を教えてほしい。機材を貸してほしい。
- 他府県で転院治療をすることとなった。機材を貸してほしい。

高校側の要請に応じて配信機材の貸出と説明に高校を訪問



授業配信で生徒を支えようとする高校が増えた。授業配信が、学習支援の選択肢の一つに考えられている。機材や無線を自校で準備することは難しい。

令和4年度 取組事例より



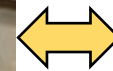
○大学受験、定期考査の受験に向けて

- 大学の入試日を配慮した治療となるように、また治療を配慮した入試日が設定できるように、主治医と高校が連携を図った。
- 自宅療養期間中、自宅での定期考査受検が高校の内規により認められない事例があった。入院治療日の配慮が可能であったため、主治医の配慮により考査期間中、入院して受験することができた。



医療と教育が情報を共有し協力することで、できることがある。丁寧な情報共有のためには医教連携をコーディネートする機能が重要である。

令和4年度 取組事例より



○入院生徒の配信機材：生徒の声

- 友だちの様子や、自分が見たいところを見たい。
- 友だちともっと話がしたい。
- 板書が見やすく、先生の声が聞こえやすい授業配信をしてほしい。

安定した無線環境を整えることは難しい。
高校側のタブレット端末を、動く台座ロボット（kubi）に載せて、入院高校生が操作し、授業を受けた。自分の姿を映したくないときにはアバターを使っていた。

事例①

高校3年生の夏、突然の入院が決まったAさん。当時まだ配信授業が今ほど普及していなかったこともあり、学校から与えられた選択肢は、「留年」か「通信制への転校」の2つでした。

「友だちと一緒に卒業できないなら、もう退学した方がいいかもしれない。」そんなことまで考えていたAさんでしたが、入院中でも遠隔で配信授業が受けられると知り、留年も転校もすることなく、高校生活を続けることができました。

辛い治療と並行してAさんは勉強も頑張りました。「こんなに勉強するAを見たことがない」と高校の先生が話されるほどです。

そんな先生の言葉に「これだけみんなのお世話になっているのに、勉強しないわけにいかないでしょ！」と返したAさんは、無事に友だちと一緒に卒業することができました。



事例②

入院をしながら高校受験をしたBさん。4月になっても退院の目途はつかず、入学式から遠隔教育が始まりました。

クラスメイトと直接会えないまま病室から配信授業を受ける日々が続きましたが、とうとう夏休みに退院することができました。そして夏休みが明けて初めての登校。緊張するBさんを、クラスメイト達が大きな拍手で迎え入れてくれました。

初めて対面したBさんとクラスメイト達が交わした言葉は「久しぶり！」でした。

初めて会うのではなく、ただ夏休みの間会えなかっただけかのようなこのやり取りから、遠隔教育であっても、Bさんとクラスメイト達との間に、強いつながりができていることがよくわかりました。



事例③

高校3年生の時に病気が発覚して、突然京都の病院に入院することになった関東在住のCさん。新しい土地で知り合いもいない中、同年代の患者もほとんどいない成人病棟で不安な日々を送っていました。

そんなときに病院内で「高校生学習会」のポスターを見たCさんは、学習室を訪ね、桃陽総合支援学校の教員や大学生ボランティアと一緒に学習をすることになりました。

年の近い大学生たちと一緒に過ごす時間は、Cさんにとって治療の励みとなったそうです。そしてCさんの心に芽生えたのは「**自分もこの人たちと同じ大学に行きたい!**」という思いでした。

退院したCさんは受験勉強を頑張り、目標の大学に合格！今は自分が大学生ボランティアに参加して自身の経験を伝える活動をしています。



授業配信をする際の負担と課題

○機材や無線に関して

- 無線や配信機材（kubi）の接続の不具合
- オンライン授業のためのについて1から自分で考えるのが大変だ。

○教員のICTスキルに関して

- 授業者とは別に、支援員を配置するといった検討が必要
- 機材の設置などは教員のICTスキルに大きく左右される

○多くの教職員や生徒は前向きに取り組んでいる。

○それぞれの負担が一定増すことになる。

入院生徒にとって授業配信は？

- 生徒の学習する権利を保障し、同級生とともに進級・卒業していくために、なくてはならない仕組みだと認識。
- 学業に遅れず着いてゆくという事、入院中もクラスの友人とコミュニケーションがとれるという事が、病気を克服する上で、非常に大きな支えとなっている。
- 孤独感や、不安感を少しでも軽減するために、友達とのつながり、社会（学校）とのつながりを感じられる同時双方向型配信授業は不可欠。
- クラスメートとのやり取りが、辛い治療の励みになる。



長期入院療養中の 高校生の学習継続に関する ガイドブック



- 関係機関の連携
- 入院療養中の学習継続
- 入院療養中の学習支援
- 西洋文化の芸術鑑賞
- 区民福祉の活用方法
- 本誌助—区民福祉が輝くための—
- 高校生の学習
- 学習資料

京都市立桃陽総合支援学校

京都市教育委員会

文庫別冊名義別「京都府立桃陽総合支援学校の生徒に対するICTを活用した遠隔授業の調査研究事業」

桃陽のHpに
掲載
詳しい事例等
も記載

令和5年度 文部科学省研究委託

「ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業（病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業）」

最後に

昨年度から、医教連携C交流会を行っていています

高校生支援を実施している
高校生支援に興味がある

石原までメールを送ってください
hi-ishihara@edu.city.Kyoto.jp